



全国各地で調査結果を発表し、学びに出かけます。

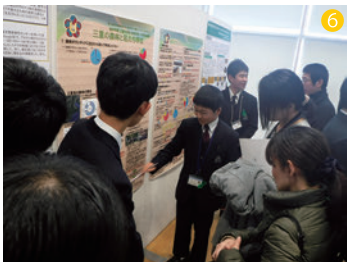
- ① 東京大学森林水文学研究所
- ② 鹿児島大学附属高隈演習林
- ③④ 地元小学校の児童たちや地域の方々に松名瀬干潟を案内。案内役は科学技術部の生徒たち。

研究と発表

科学技術部の生徒たちには、三重大学をはじめ、国内の大学や県の研究者、漁協や自治会といった各分野のプロたちから知識や技術を学ぶ機会をつくっています。その学びを生かし、試行錯誤しながら調査実践を行い、データを分析し、ディスカッションを繰り返して、調査結果をまとめるまでのすべての過程を、生徒たちが主体的に行動しています。

小西先生は、このまとめを発表することが重要だと言います。発表するためには確かな考えが必要になります。始めからまとめ発表することを前提に進めると、生徒たちは責任を持って勉強するようになるのです。科学技術部は、一般の中学生・高校生では参加できない大人の研究会や、学識者が集まる大きな学会での発表の機会に恵まれ、生徒は発表するとともに、意見交換や他者の発表から多くのことを学び取ります。その積み重ねと評価が生徒たちの自信となり、次の行動につながっていきます。

また、産官学民が協創して、豊かで持続可能な伊勢湾を、次世代に繋がるアクア・アクシオン〜美しい水環境を未来につなぐまち創造協議会（アクア松阪創造協議会）をつくり、地元の小学校で授業を行っています。これは、地域と関わり、広げていく活動であり、参加者には授業内容を地元の方々に伝えてもらうようにお願いしています。



- ⑤ 日本科学未来館で招待講演
- ⑥ 日本森林学会でのポスター発表
- ⑦ 子どもの森サミットで講義
- ⑧ 地元の小学校地区の文化祭
- ⑨ みえ環境大賞受賞

